

国際会議報告



The 56th Annual Microwave Power Symposium (IMPI 56 Symposium) 報告

International Microwave Power Symposium (IMPI 56) Report

上智大学理工学部物質生命理工学科 堀越 智
Sophia University, Satoshi Horikoshi
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
e-mail: horikosi@sophia.ac.jp

今年で56回目となる International Microwave Power Institute 国際会議 (IMPI 56) は、2年ぶりの対面方式で、ジョージア州サバンナのホテルで行われた。実行委員である筆者も渡米し、久々の対面での国際会議を満喫した。オンラインとは異なり、生の議論ができる本会議には150名を超える参加者（アメリカ人参加者60%、海外からの参加者40%）と、48件の口頭発表があった。

発表内容のトレンドは、半導体発振器を使った電子レンジ、環境、化学触媒であり、特に若い研究者や学生の発表が目立ち、明らかに世代交代も進んでいることがうかがえた。また、先端的な研究でない発表もあったが、一方で各研究は非常に丁寧に実験データがとられており、こういったデータの蓄積は研究分野の基礎となり、IMPIにとって非常に重要な知見となっている。また、さまざまな分野が参加する本会議において、異分野を理解するための機会を得ている。

また、毎年のものであるが、テクニカル審査員によって何度も発表者とやりとりをし、要旨原稿に対してもIMPIで議論できるレベルまで英語・内容・説明をブラッシュアップしている。このように、発表内容の質を高めることで一定以上の発表の質を維持している。



図1 マスクなしで会議が進行した

本シンポジウムでは、初日にショートコースがあり、半導体式発振器についての講義と今後のビジネス戦略を関係各社が集まり議論をした。二日目からは依頼講演と一般の発表が進められた。各セッションには依頼講演が設けられ、日本からは京都大学の篠原真毅教授が無線電力伝送の発表を行った。また、最終日にはビジネスミーティングがあり、筆者もアジアの統計的な状況を説明し、世界各国のビジネス分野における活動がまとめられた。

会議の間はマスクの義務はなく、筆者も久しぶりにマスクなしの慣れない日々を過ごした。懇親会でも夜中までアルコールを飲みながら議論を行い、これも久々の慣れない懇親会であったが、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの最近の情報を得ることができた。



図2 懇親会は夜中まで議論が白熱した。

本会議は長年 IMPI を牽引してきた、Bob Schiffmann 博士（会長）が亡くなって初めての会議であった。非常に紳士的に IMPI を牽引してきたリーダーを失った本会議であったが、新旧の委員が手分けをして、会を盛り上げるためのさまざまな試みをおこなった。また、筆者が Schiffmann 博士の葬儀の際に送った追悼の思い出のビデオが会の中でも流され、多くの参加者が同氏との思い出を偲いだ。同氏は JEMEA でも講演をしていただいております、若い研究者に強いメッセージを送ってくれたことを思い出す。



図3 Bob Schiffmann 博士の写真

本会議は非常に家族的で、初心者から上級者まで活発に議論できる会議になっている。また、多くのビジネスチャンスもあるため、ぜひ来年の **IMPI 57** にご参加いただき、世界の情報収集と白熱した議論を体験してほしい。